

氏名	朴 賢娥		
ヨミガナ	パク ヒョナ		
学位の種類	博士（音楽）		
学位記番号	博第8号		
学位授与年月日	平成30年3月10日		
学位論文題目	A.ドヴォルザークチェロ協奏曲イ長調B.10 オーケストラ版演奏に向けての基礎研究		
博士論文審査委員会	（主査）	教授	岡田 敦子（ピアノ）
	（副査）	教授	フェイギン ドミトリー（チェロ）
	（副査）	教授	武石 みどり（音楽学）
	（副査）	准教授	藤田 茂（音楽学）
	（副査）		森垣 桂一（作曲） （国立音楽大学教授）
博士演奏等審査委員会	（主査）	教授	岡田 敦子（ピアノ）
	（副査）	教授	フェイギン ドミトリー（チェロ）
	（副査）	教授	店村 眞積（ヴィオラ）
	（副査）	教授	武石 みどり（音楽学）
	（副査）	准教授	小串 俊寿（サクソフォーン）
	（副査）	准教授	秋山 隆典（声楽）
	（副査）	准教授	原田 敬子（作曲）
	（副査）		北本 秀樹（チェロ） （桐朋学園大学非常勤講師）

審査結果の要旨

1. 博士論文審査委員会

日 時	平成 30 年 2 月 14 日 (水) 9 時 30 分～12 時 00 分
場 所	東京音楽大学 J208
判 定	合
審査結果の要旨	<p>ドヴォルザークの初期作品であるチェロ協奏曲 B. 10 は、二重奏版の自筆譜が唯一の伝承資料であり、演奏の機会も多くない。この作品を実際に演奏することを目標として、どのような編成で演奏すべきか、後世の人間がオーケストレーションしたスコアをどのように捉えるべきかなどについて明確な手順を踏んで検証と考察を重ね、演奏に使用するスコアの作成に至るまで行っている。演奏を専門とする者の博士論文として独自の視点と優れた内容を備えていることを評価し、博士の学位を授与するにふさわしいと判定した。</p>

2. 博士演奏等審査委員会

日 時	平成 29 年 7 月 21 日 (金) 18 時 30 分～19 時 30 分
場 所	東京音楽大学 A 館 100 周年記念ホール
判 定	<p>演奏するのに難しいプログラムであったが、よくコントロールされ、情熱的でスケールの大きい秀逸な演奏であったこと、またドヴォルザークのチェロ協奏曲ニ長調についてはオーケストラをみずから組織し、日本初演であることも評価し、審査員全員一致で「合」と判定した。</p>
審査結果の要旨	<p>博士研究のテーマであり、この演奏会のメインの曲目であるドヴォルザークのチェロ協奏曲イ長調に関して、まずオーケストラをみずから組織し、日本初演を行ったことは評価できる。</p> <p>この協奏曲は、ドヴォルザークが作曲を始めたばかりの時期に書かれたもので、ドヴォルザークの残した楽譜はピアノ伴奏の二重奏であるが、今回はヤルミル・ブルクハウザーのオーケストレーション版を基に演奏された。作品自体の完成度が高いとは言えず、オーケストレーションにも問題があり、演奏するには難しい曲であったが、ソロ・パートは十分に準備され、集中力のある、技術的にも安定した演奏であった。豊かで暖かく、ソリストとしての「音」を有しており、コントロールをよく保ちながら、情熱的でスケールの大きな演奏を繰り広げたとすることができる。しかし、なおも音程に不安定さが残り、様々なフレーズをさらに整理する余地があるという意見も審査員のなかからは上がった。</p> <p>続いてオーケストラとともに演奏されたドヴォルザークの《森の静けさ》作品 68-5 は、曲も分かりやすく、聴衆を十分に楽しませるひとときとなった。協奏曲イ長調の後にこの曲も配したことは、良いプログラミングであった。</p>

以上